

# 第21回名古屋大学大学院人文学研究科 言語学分野公開講演会

後援:令和3年度名古屋大学大学院人文学研究科 研究プロジェクト経費  
「若手言語研究者育成のためのオンライン講義・チュートリアル実施プロジェクト」

## 動的機能類型論の試み

講師:柴谷方良 先生 (神戸大学名誉教授・ライス大学名誉教授)

「機能類型論」は、文法形式と機能との対応関係ならびにマーキングパターンについての一般性の導出を可能にするが、共時的な記述文法と同じく、マーキングパターンの解釈・理解、つまりその成立過程や動機については明らかにしてくれない。

本講演では、まず奄美琉球語の体言化(nominalization)現象を例に、マーキングパターンの解釈・理解には通時的観点の導入が必要であるとの認識に立って、マーキングの多様性を産みだす史的展開は、「話し手のエコノミー」・「聞き手のエコノミー」という競合関係にある原理によって動機付けられているとする、ダイナミックな類型論の必要性を説く。

次に、提唱された「動的機能類型論」の観点は、一言語内の史的発達ばかりでなく、空間軸に沿った通言語(crosslinguistic)データの取り扱いにおいても有効であることを、類別詞((numeral) classifier)ならびに文法性(grammaral gender)を取り上げて示す。その過程において、類別詞・文法性の現行の取り扱いの問題点・限界を見極めたうえで、これらは共に分類を伴う体言化現象に他ならないという主張を展開し、これらと従来の分類を行わない体言化を包括的に捉える体言化のタイポロジーを提示する。

日時:2021年12月5日(日) 午前10時~12時 (質疑を含む)

場所:Zoom

参加登録:参加無料。以下よりご登録ください。開催日前日までに参加方法をメールにてお知らせいたします。

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd8\\_YIa7IkrGAW-r9\\_BooZOMgOWpZBZhmTnWF5kWwOKXDrnyA/viewform?usp=sf\\_link](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd8_YIa7IkrGAW-r9_BooZOMgOWpZBZhmTnWF5kWwOKXDrnyA/viewform?usp=sf_link)

お問い合わせ:堀江薫

<horie.kaoru AT c.mbox.nagoya-u.ac.jp> (“AT”を@にご変更ください)